



## 校内造形展スタート!

子供たちが作った、図工の作品展が、校内で展示されています。期間は、1月16日(火)～19日(金)です。この期間は、全校児童が同学年・他学年の作品鑑賞をしながら、そのよさを感じ取っていきます。子供たちの作品は、どれも思いがあふれるものです。また、図工の時間に、担任や指導した教諭が、その子らしい資質や能力を発揮できるようにという願いも感じ取ることができます。



作品を見ていた4年生の子供たちがいたので、鑑賞シートに書いてある感想を見せてもらうと「🧠鑑賞して、つくった人の頑張りを知ることができて感動しました。」「🍎人それぞれの個性を活かして作品を作っていることが伝わってきた。」「🍎自分にはない発想があって驚いた。何度見ても飽きなかった。」「🍎レッドの心が伸びた。なぜなら、人の作品を見て、自分もいい発想をまねしてみようと思えたから。」と作品をじっくり見ていて感心しました。

造形・美術教育は、「その子が、その子らしく作品を創る」という「当たり前」の時間です。教育の世界では、何十年もそれを授業として継続してきました。造形展等で学び合いながら、「当たり前」を守ってきたのです。それは子供だけに終わるのではなく、家庭に持ち帰ることで、家族ともつないでいます。そのかけがえのない作品を子供たちが持ち帰った後も話題にしてください。

## おめでとう!くまもとジュニアプログラミングアワード入賞

この大会は、全国選抜小学生プログラミング大会の一環として行われ、本校からは、3年生の井澤 駈さんがアイデア部門で入賞しました。作品名は「確認アプリ」だそうです。井澤さんの受賞コメントを紹介します。「このアプリは忘れ物や予定忘れを減らしながら確認する癖をつけて、将来的にはアプリに頼らずにうっかり忘れを無くすことを目指しています。アプリには宿題モードと予定モードがあり、パッと見ただけでわかるように工夫しています。僕のように忘れ物が多くて困っている小中学生の皆さんにも役立ててもらえたら嬉しいです。」ということです。このプログラミング大会は、プログラミング教育によって育まれる思考力を活用し、共生社会の実現や社会課題の解決に向けて明るい未来を創造する子供たちを応援したいという思いで、全国の新聞社と共同通信社が2020年度から「全国選抜小学生プログラミング大会」を開催しています。熊本大会では、「社会課題解決部門」「アイデア部門」の2部門を設置し、「アイデア部門」で井澤さんが入賞を果たしました。なお、入賞者の中で3年生はただ一人で、残る入賞は、全て上学年という快挙でした。

